

令和7年度 長田区地域包括支援センター運営協議会 議事録

I. 日 時 令和7年8月7日(木) 午後1時半～3時

II. 場 所 長田区役所7階 大会議室

III. 議 題

《公開》

1. 令和6年度 あんしんすこやかセンターの運営状況について
2. 令和7年度あんしんすこやかセンター事業計画書について

《非公開》

3. 特定事業所へのサービス集中率について
4. 地域包括ケア充実のための事業目標

IV. 出席者:委員11名中10名出席(傍聴人1名)

V. 当日出された主な意見及び事務局回答

各議題における意見や質問等

《公開》

1. 令和6年度 あんしんすこやかセンターの運営状況について
2. 令和7年度あんしんすこやかセンター事業計画書について

(質問) 事業所との連携はとても大事なことであるが、この取り組みは広がってきているのか。介護や虐待の相談件数の増加している一方で、介護リフレッシュ教室の参加者は減少しており、意識向上への取り組みが課題とある。今後研修などに力をいれていただきたい。

(神戸市老人福祉施設連盟)

(回答) スーパーやコンビニなどが地域ケア会議に参加しているあんしんすこやかセンターもあり、少しずつ輪が広がってきている。今年度は区の地域ケア会議においてもそのような事業所へ参加を呼びかける。

また、認知症関連の研修については、区の主催以外の研修も多く、その内容も充実している。区では今年度、認知症の家族支援をテーマに質の向上研修を実施する予定。

(意見) 認知症の理解は広がってきていると思う一方で、年齢とともに様々な機能が低下するという理解は進んでいないと感じる。身体機能は低下していき、ADLも急に落ちるという理解が追いつかず、リハビリをすればどのような状態からでも改善すると思っている家族が多い。このようなリハビリの希望が強く、高齢者本人の現状を受け入れることができない家族の対応に医療機関やあんしんすこやかセンターの主任介護支援専門員が苦慮する場面が多くみられている。(兵庫県民間病院協会神戸支部)

(回答) 出来る限り元気に過ごせるよう、フレイル予防や認知症にならないようにという啓発はすすんできた。とはいえずっと元気で過ごすことは難しい。元気なうちから衰えていったときの自分の希望や過ごし方を考え、家族とも話し合う時間をつくることなど今秋は地域フォーラムを通じた啓発を予定している。

(意見) 薬剤師も日頃から一つ一つの事例に対して、ご本人だけでなくキーパーソンを交え、訪問看護師やリハビリ職それぞれがひとつのグループとしてチャットワークなど活用しながら理解度についても連絡をとりあい、医療と介護の連携を図っている。理解を促すためには

少しずつの積み重ねが必要であると思う。このような連携を拡げるためにフォーラムなどの啓発の場を活用したい。(神戸市薬剤師会)